

センター活用事例 [case1]

有限会社 堀江文具 facebook / てぬぐい「あぁ、思い出の由利橋」

由利本荘市本荘100番地  
Tel. 0184-23-2115 Fax. 0184-23-2114  
[営業時間] 平日9:30~19:00 / 土曜日9:30~17:30 / 祝日9:30~15:00  
[定休日] 日曜

「作って売って終わりではなく、「地域の今後」に繋がる商品にしたい」と話す堀江さん。



遣事業を利用し、秋田市のデザイナー・鎌田あかねさんと昨年度から相談を重ねて商品化した。

堀江文具は、文化交流館「カダーレ」内の物産館「ゆりぷらざ」に商品を置く由利本荘市特産品販売組合のメンバー。「ゆりぷらざに由利本荘市ならではのお土産が増えたらいいな」と考え、自ら手ぬぐいを愛用していることからオリジナル手ぬぐいの制作を思いついた。

「鳥海山は？本荘ごてんまりは？」など、どんな絵柄にするか打ち合わせを重ねるなか、鎌田さんの「個人的に思い入れのあるものをモチーフにしては？」との一言で、堀江代表が小・中学校時代に通学路として利用した記憶の中の「由利橋」に決定した。

旧由利橋にまつわる思い出を地元の知り合いに聞いて回り、原案をまとめた。橋を渡る制服姿の学生やランドセルを背負った小学生、新山神社参りの男衆、川に浮かぶ子吉川レガッタのボート、夏のいかだ下り大会の人々など、地元民の思い出たっぷりのイラストが完成した。

さまざまな展開に期待

発売以降、地元の人や地元を離れて暮らす人から「懐かしい」「親戚に送りたい」「第2弾は？」などの多くの声が寄せられた。「好評でうれしい。裏を返せば、地元を語るお土産が少ないということ。この手ぬぐいをきっかけに本荘ならではのお土産がもっと増えることを期待したい」。これを機に座談会を開催するなど地域おこしに役立てたいと考えている。さらには第3者から「あぁ…思い出の由利橋」の絵柄を使いたいという相談も。今後の展開を考え、当センターの知財担当の助言を得ながら著作権や商標登録等の手続きを検討している。

センター活用事例 [case2]

農事組合法人 立花ファーム

大館市立花字塚の下40-3  
Tel. 0186-43-6628

「餅は主に年末年始用に販売していた。これを通年販売できるように頑張りたい」と中島理事。



自社栽培の餅米、ブラックベリーで商品開発



立花ファーム

売上拡大、販路拡大などのあらゆる悩みに応える窓口「サテライト」。相談を重ねて、次の一歩を踏み出す。

県内7ヶ所に窓口開設

中小企業や個人事業者が抱える経営上のあらゆる相談に応じる「秋田県よろず支援拠点」。コーディネーターが事業者の声を丁寧にヒアリングし、経営上の様々な悩みの解決を支援。成果が出るまで定期的にフォローアップし、課題に応じて複数の支援機関・専門家がチームを編成して力強くバックアップする。

常設の相談窓口はあきた企業活性化センター内にあるが、「秋田市までは距離がある」という地域の方におすすしたいのが、県内各地で開催する“出張窓口”の1つである「サテライト」。9月からは鹿角市でも開設され、県内7ヶ所での定期開催となっている。9月2日(金)の「サテライト大館」は三浦繁弘コーディネーターが窓口を担当。

話すことで改善点が見えてくる

当日の相談者、「立花ファーム」の中島貞雄理事にお話を伺った。

「大館市立花地区の42戸・48人で構成する農事組合法人です。水稻、野菜、ブラックベリー等の栽培と、餅やブラックベリージャムの製造を行っています。サテライトを利用したのは、自社生産した餅米が原料の『切り餅』『干支餅』『七福神』の販促について相談したのが最初で、今回が5回目の訪問です。今は、夏商品として地元高校生とコラボレーションした『ブラックベリー餅』について、専門家派遣事業を利用しながら品質向上と衛生管理の指導を受けています。ゆくゆくは『ブラックベリー餅』を通年販売することを目指しています。

サテライトは地元までコーディネーターの方が来てくれるので、移動時間の面で助かります。何でも気軽に話せるし、話しているうちに、自分たちでは気がつかない新たな視点が生まれ、課題や改善点が明確に見えてきます。」

サテライトの相談は無料※。気軽に相談できる雰囲気だ。サテライトの様子は「秋田県よろず支援拠点」のfacebookで紹介している。

※具体的な支援の段階で自己負担が発生する場合があります。

コーディネーター 三浦繁弘

得意分野…商品開発戦略、販路拡大、売上拡大

食品メーカーで培った実践的な経験を基にした、マーケットインの商品開発指導、流通チャネルとのネットワークを活用した販路開拓支援に多くの実績を有し、売上拡大に直結する販売、商品開発戦略を得意としている、また、農商工連携や6次産業化、企業マッチングの支援による新商品開発や連携事業等の指導実績多数。

事業概要 秋田県よろず支援拠点 サテライト大館

秋田県内の中小企業・小規模事業者のための経営相談所として、売上拡大、経営改善など経営上のあらゆる悩みの相談に対応します。コーディネーターを中心とする専門スタッフが適切な解決方法を提案します。

[日時] 第1・第3金曜日 10:00~15:30  
[会場] 大館市役所本庁

お問い合わせ あきた企業活性化センター 秋田県よろず支援拠点  
TEL 018-860-5605

地元の魅力を見直すきっかけに

有限会社 堀江文具

今年4月の発売以来、大人気の手ぬぐい「あぁ…思い出の由利橋」。懐かしの風景が地域愛を呼び起こす。

発売半年足らずでヒット

手ぬぐいに描かれているのは、由利本荘市の市街地を流れる子吉川と平成21年に老朽化による架け替えにより撤去された旧由利橋(通称:ゆりきょう)。その橋と川、河原で繰り広げられる季節の風景、何気ない日常、年中行事など。

発売以来、由利本荘市内の各販売店で入荷待ちになったほか、東京・有楽町の「秋田ふるさと館」では販売期間が延長になるなどヒット商品となった「あぁ…思い出の由利橋」。初回に制作した500枚を完売し、夏には追加制作分が店頭に並んだ。

地元民の思い出をイラストに

企画したのは、文具や画材などを扱う「堀江文具」代表の堀江彩子さん。当センターの専門家派



A 「ゆりぷらざ」で、他に堀江文具、市役所売店、民芸さいとう、本荘第一病院売店、村井酒店(以上、由利本荘市)、あきた県産品プラザ(秋田市)などで販売。  
B 緑の看板が目印の堀江文具。

事業概要 専門家派遣事業

企業等が抱える経営・技術・人材・情報等の課題に対し、センター登録専門家を派遣し、診断・助言を行います。

お問い合わせ あきた企業活性化センター 総務相談グループ  
総合相談担当  
TEL 018-860-5610



A 自社栽培のブラックベリーを使って手作りしているジャム。煮詰めた果実を裏ごしして種を取り除くなど、手間暇かけて作っている。  
B 相談に応じる三浦コーディネーター。